



シラバス詳細

科目区分	生活科学部 > 食物学科
科目名	災害を知る
科目コード	SH14-3⑥-KG3-036
学年	1年生、2年生、3年生、4年生
単位	2
開講学期	集中
授業の方法	講義
必須・選択	選択
備考	研究室：340（下池）
担当教員名	大土井 亮輔（おおどい りょうすけ）、大西 一嘉（おおにし かずよし）、河本 陸宏（こうもと たかひろ）、下池 洋一（しもいけ よういち）、中塚 賢治（なかつか けんじ）、濱子 訓志（はまご さとし）、前川 真一郎（まえかわ しんいちろう）、前山 博輝（まえやま ひろき）、山下 幹芳（やました みきよし）

ディプロマ・ポリシーの要素との関連

専門的職業人として円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション力を身につけること。

授業の目標

本授業では、近年多発している自然災害のしくみと、災害に関わる情報を理解でき、現場で活躍できる防災士として必要な能力を養うことをめざす。

授業の内容及び方法

授業はオムニバス講義形式で行う。最初に近年発生した自然災害と防災士の役割を概説した後、教科書に沿って防災士に必要な知識を具体的に説明する。各講義終了時に質問を受け付け、最終回で回答する。

授業計画

▶ 第1回目

ガイダンス

日本で発生した近年の主な自然災害の特徴と被害状況、新型コロナウイルス感染症の現状

▶ 第2回目

地震・津波による災害（Ⅰ）

地震発生域の特徴、地震被害の種類、長周期地震

▶ 第3回目

地震・津波による災害（Ⅱ）

津波発生メカニズム、津波災害の特性、被害軽減の方法

▶ 第4回目

地震・津波による災害（Ⅲ）

日本の地震被害の規模と頻度、南海トラフ地震の情報、国の総合対策

▶ 第5回目**火山災害**

火山噴火の様式、前兆現象、災害の種類、噴火予知の取り組み

▶ 第6回目**震災火災・住宅火災**

火災の種類と予防、広域・大規模火災と防火対策

▶ 第7回目**気象災害・風水害・土砂災害**

地球温暖化と気象変動、気象情報の利用、土砂災害の発生メカニズムと前兆現象

▶ 第8回目**災害関連情報と予報・警報**

気象に関する予報、特別警報、注意報の種類、地震・津波・火山の情報

▶ 第9回目**被害想定・ハザードマップと避難情報**

被害想定を作成と活用、ハザードマップの種類と利用方法

▶ 第10回目**災害情報の活用と発信**

被災者の情報ニーズと災害情報、風評被害・パニックを防ぐ方法

▶ 第11回目**災害医療とこころのケア**

災害医療の3つのTとは、防災士の行う「こころのケア」

▶ 第12回目**ライフライン・交通インフラの確保（Ⅰ）**

電力供給に関する防災対策、都市ガス、LPガスの災害と復旧手順

▶ 第13回目**ライフライン・交通インフラの確保（Ⅱ）**

鉄道の震災対策、道路交通規制と緊急輸送路の確保、帰宅困難者の対策

▶ 第14回目**企業・団体の事業継続**

企業に求められる防災活動、事業継続計画の実態と政府の目標

▶ 第15回目**まとめ**

各講義に関する質問に対する回答

課題及び授業時間外の学習内容

講義内容に関するレポートを課す。

授業の到達目標

個人の災害発生時の対応ができる。地震、津波、火山噴火などの自然災害の発生機構が説明できる。関係各機関が提供している防災情報を正確に理解し、活用できる。

履修上の注意・要望等

災害は身近に起きるものであるということを認識して授業を受けること。また防災、減災に関する新聞、ニュース等、時事問題に関心をもつこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業後に復習問題を提示するので取り組むこと。レポートを含め、おおむね30時間の自主学習時間が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習、討議（ディスカッション、ディベート）

オープンな教育リソース（例：edx、Coursera、JMOOC 等）

評価方法

提出課題（60％）、配布課題の取り組み（40％）により総合的に評価する。

評価のフィードバック方法

課題に対するフィードバックは成績評価をもってあてる。

教科書

防災士教本（日本防災士機構）

参考文献

キーワード

防災士、地震、火山、津波、防災対策、ライフライン、インフラ、災害情報、ハザードマップ

資格に関する情報

資格・教員免許（幼・小）に関する情報

◎必修_防災士試験受験資格

教員免許（中・高）に関する情報

【大学院】資格・教員免許に関する情報

Copyright © MIMASAKA University, All Rights Reserved.